

予 算 要 求 資 料

令和6年度3月補正予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 自然環境整備交付金事業費（国補正）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

環境生活部 環境生活政策課 自然環境活用交流促進係 電話番号：058-272-1111(内2927)

E-mail：c11260@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 34,000 千円（現年度予算額： 0 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	34,000	15,000	0	0	0	0	0	19,000	0
決定額									

2 要 求 内 容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

中部山岳国立公園において、自然公園等の安全な利用や利便性を高めるため老朽化した施設の再整備を行う。

（2）事業内容

国立公園事業

県事業（中部山岳国立公園の整備）

（3）県負担・補助率の考え方

国立公園事業

県事業 国1／2、県1／2

（4）類似事業の有無

・自然公園等施設整備推進事業費

本事業（自然環境整備交付金事業）においては、国立公園、国定公園、長距離自然歩道以外の施設整備、また撤去のみの経費は補助対象外のため、本事業の対象にならない施設整備を行う事業。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費	34,000	自然公園等施設整備事業
合計	34,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

自然環境整備計画に位置図けられている事業について、交付対象となっている。

(2) 国・他県の状況

県が設置した施設（県有施設）は、県が再整備。
市町村が設置した又は新規で設置する施設は、市町村が整備。

(3) 後年度の財政負担

事業実施主体において管理する。

(4) 事業主体及びその妥当性

より現地に即したきめ細かい整備が可能のため、県による施行が妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

自然公園等の利用促進を図るため、災害や老朽化で破損した施設の再整備等を行い、利用者が安全、安心、快適に利用できる環境を整える。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

老朽化した施設の改修等であり、指標等の目標を設定することになじまない。

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<p>国立公園事業として県工事（委託）を2件、国定公園・自然歩道事業として、県工事を1件及び4市の工事に対して補助を行い、道路の落石対策や自然歩道の指導標識の改修等を行い、自然公園や長距離自然歩道の安全、安心、快適な利用環境を整えた。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>国立公園事業として県工事を1件、国定公園・自然歩道事業として、2市の工事に対して補助を行い、道路の落石対策や自然歩道の指導標識の改修等を行い、自然公園や長距離自然歩道の安全、安心、快適な利用環境を整えた。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和5年度	<p>自然歩道事業として、県工事を1件及び6市町の工事に対して補助を行い、自然歩道の防護柵や指導標識の改修等を行い、長距離自然歩道の安全、安心、快適な利用環境を整えた。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	新型コロナウイルスの流行拡大を受け、感染症リスクの少ない自然の中で活動できる登山やトレッキングを楽しむ人が増加傾向にある。このため、自然公園や長距離自然歩道の整備は必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	危険箇所の安全対策や災害、老朽化で破損した施設の再整備を行っており、直接、利用者への利便性向上につながるため、効果は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 1	施設整備後の維持管理は市町村へ委託。県単独ではなく市町村と連携することで破損施設の早期発見など、事業の効率化を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 過去に整備した施設の経年劣化が激しく、適宜改修を実施していく必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 既存施設を中心に、地域のニーズを踏まえ、利用者が自然公園や長距離自然歩道を安全、安心、快適に利用できる環境を整える。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】